

付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（愛媛大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

感染状況を踏まえた授業形態の設定

学生、教職員の安全を第一に考えた上で、学生に学習の機会を最大限提供できる方法を検討し、クォーターごとに授業方針を決定し、授業を実施した。

遠隔授業の質向上に資する情報共有

初心者のための遠隔授業のヒント、遠隔授業をグレードアップするためのヒント集Vol1、Vol2、オンライン授業ガイドラインなどを作成し、教員に情報共有した。

遠隔授業に資する設備整備

Moodle（LMS）や動画配信のサーバ容量を増強し、増加する遠隔授業の円滑実施に対応した。また、複数の講義室へ講義録画・配信システムを整備した。

同期型遠隔授業のためのツール（ZoomやWebEx等）の活用

令和2年度、同期型遠隔授業をおこなうために必要なツール（Zoom約350ライセンス、WebEx約300ライセンス）の一括契約を行い、研修会を開催して円滑で有効な活用に努めた。

令和3年度からは大学全体でマイクロソフト365を包括契約し、すべての教職員、学生がTeamsを使用可能とした。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

ノートパソコン、Wi-Fiルーターの貸し出し

ネット環境の不備等により遠隔授業の受講が困難な学生に対し、ノートパソコン及びWi-Fiルーターの貸し出しを行った。

遠隔授業受講のための学修スペースの開放

ネット環境が十分でない学生に対し、感染防御対策を徹底した上で、学習スペースとしてPC演習室や大教室を開放した。

学生寄宿舍のWi-Fi環境の整備

遠隔授業に対応するため、学生寮（427室）でWi-Fiが自由に使える環境を整備した。

緊急支援給付金制度の創設

経済的に困窮した学生に対し、寄附金を原資とした大学基金を活用して給付制度を創設し、令和2年度は3万円を723人に、令和3年度前半期は5万円を383人に給付した。さらに令和3年度後半期の給付を計画中である。

学生によるオンライン学生支援

通常、対面で行ってきた「学生による学生の学習支援」をオンライン上で実施した（スタディ・ヘルプ・デスク（SHD）：平成17年度から続く、大学院生が学部生の学習をサポートする制度）。

一人暮らしをする学生への生活支援

愛媛大学生協の協力を得て、地域生協（コープえひめ）から無償提供いただいた「くらし応援セット（食料品・日用品）」を一人暮らしをする学生1,618人に配布した。

コロナ禍における集約した情報提供

新型コロナウイルス感染症に関わるさまざまな情報を大学ウェブサイトを集約するとともに、学生に対して修学支援システム（LMS）により迅速に情報提供を行った。

さまざまな感染防御対策の工夫

各所に手指消毒用アルコール消毒液の設置、体温測定装置の設置、間隔をとるための教室座席の定員削減措置、換気のため窓の開放、CO2モニターの導入、飛沫防止の亚克力板設置

新型コロナワクチン接種への積極的な取組

愛媛県内唯一の医学部附属病院を有する大学として、学生・教職員の健康を守り、さらにワクチン接種に関する地方自治体の負担を軽減し、国民全体のワクチン接種の加速化を図るため、県内8大学等（愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学、愛媛県立医療技術大学、岡山理科大学獣医学部、愛媛県立農業大学校、愛媛十全医療学院）の学生・教職員、関係業者、愛媛県立高校の教員、本学附属中・高等学校の生徒、本学職員の家族を対象に、7月17日～9月5日（予備日9月10日・9月17日）の間に約14,000人（1日あたり約2,000人）への接種を実施した。